

# いちのみやの芸術文化

- 特集「一宮の山車祭礼」
- 加入団体の紹介
- 第72回一宮市美術展入賞者
- これからの催し
- 文化講演会（報告）

五輦の山車が出揃う昭和初期の石刀祭  
(奥から吞光車・中屋敷車・山之小路車・  
更屋敷車・大聖車)

写真提供:柳田章平氏

2014.12

第31号

一宮市芸術文化協会

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

# 一宮の山車祭り

## ◆一宮の山車祭り

お囃子の音には、私たちの心を躍らせ、郷愁を誘う魅力があります。市域には、春

の真清田神社桃花祭、馬寄石刀祭、夏の黒岩川祭・瀬部田台祭、秋の重吉甘酒祭・加納馬場秋祭など、馬之塔や津島信仰の系譜をひく祭礼、獅子屋形(獅子芝居)の奉納など、それぞれ尾張らしい特徴のある祭礼が今でも残っています。その中でも一際目立つのが、八メートルを越える三輦の山車が出揃い、からくり人形が奉納される石刀祭です。



石刀祭は、今伊勢町馬寄にある石刀神社

▶山車三輦が中大門に出揃う前から大聖車、中屋敷車、山之小路車

で毎年四月十九日に行われる祭礼で、その後の日曜日に山車とからくり人形、馬が神社に奉納されます。石刀祭の創始については、伝承が残っています。関ヶ原の合戦の際に徳川軍がこの地に陣営をしき、誤って社殿等を壊したため、合戦後に徳川氏の命により修復工事がされました。

その奉祝のために慶長十三年(一六〇八)、伊奈備前守に願ひ出て山車・馬を奉納したのが最初であると伝えていきます。

## ◆石刀祭の記録とその歴史

江戸時代には、八月十九日に祭礼が行わ

れていたことが『尾陽村々祭礼集』(宝暦五年・一七五五)、『感興漫筆』(嘉永四年・一八五二)、『尾州領郷帳』(近世後期)、『尾張名所図会後編』(明治十三年・一八八〇)などの文献や、石刀神社に残る古文書(宝暦年間)に記されています。この中でも細野要斎の『感興漫筆』には、嘉永四年(一八五二)八月二十日(雨により順延)の記述として、活き活きと祭礼の様子が書かれています。

廿日、朝より雨降りしが、午時に至て晴る。：神社は村の北辺にあり、幟に三明大明神とするすを所々に立つ。飾り馬走り、馬四十足の余を出す。車乗三輛あり、祠前の路を西より曳来て、三輛比ぶ。馬を走らしむるの際は、偶人を躍らしむる事を許さず。未の下より馬を走らしめて、申の下に至る。馬皆走て後：(後略)

これらの記録から、十七世紀初頭に大聖車・更屋敷車の二輦で始まった山車奉納は、すぐに吞光寺車を加えた三輦となり、十九世紀中頃には現在と異なったからくりが演じられていたことがわかります。現在残っている大聖車・中屋敷車・山之小路車の山車のうち、後者二輦が後から加わり全部で五輦となりましたが、第二次世界大戦での

空襲により更屋敷車・呑光寺車の二輛が焼失してしまいました。表紙の写真は、五輛が揃って写っている戦前の貴重な写真です。

## ◆石刀祭の特徴

江戸時代には八月十九日に行われていた石刀祭は現在、四月十九日の例祭・頭人行事と、十九日以後の最初の日曜日に行う山車・献馬奉納の二日間の日程で行われています。

明治時代まで、祭礼の中心となる頭人は若者組に入るまでの子ども(稚児)がなっていました。頭元となる家は馬寄八瀬古(大聖・東更屋敷・西更屋敷・呑光寺・中屋敷・山之小路・六地藏・吉田)と呼ばれる八つの地域の中の大聖瀬古から必ず選ばれます。その決まりは今なお守られ、伝統が現在まで引き継がれています。



▲頭人が宿を出て神社に向かう

## ◆山車とからくり人形

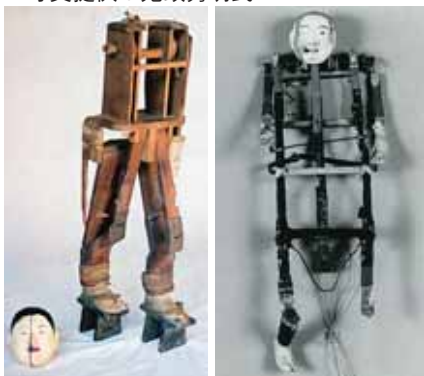
日曜日に行うようになった山車・献馬奉納では、大聖車・中屋敷車・山之小路車の

山車三輛と、大聖・更屋敷・呑光寺・山之小路車・六地藏・吉田瀬古から各一頭ずつ、六頭の馬が奉納されます。

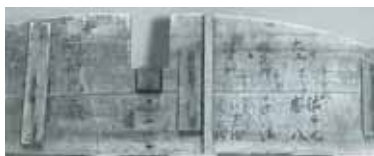
山車はいずれも三層式の犬山型と言われる山車で、最近の調査によって寛政七年(一七九五)の『犬山祭行粧絵巻』に描かれた犬山の旧鍊屋町山車が、現在の大聖車であることがわかってきました。大聖車の屋根部材には大工や飾職人の名前とともに、明和九年(一七七二)の記念銘があります。

現在のからくりの演目は、大聖車が「唐子の綾渡り」、中屋敷車が「唐子の大車輪」、山之小路車が「唐子の倒立と綾棒下がり」が複合したものとなっています。しかし、『尾陽村々祭礼集』によれば、江戸時代中期には「狸々」「神子湯立」、「道成寺」の演目が、「感興漫筆」からわかる江戸時代後期には「綾渡り」、「牡丹から獅子に変身するもの」、「乱杭渡り」の演目が奉納されていたようです。石刀神社

### ▼山之小路車の乱杭渡り人形 写真提供：鬼頭秀明氏



▲大聖車の綾渡り人形



▲大聖車屋根部材

には現在、もともと大聖車で使われていた古い綾渡りのからくり人形と記録には残っていない山之小路車で使われていた乱杭渡りの人形と杭が残っています。からくりを村々で交換し、目新しいからくり人形がやってきたときには、村人たちはさぞかし嬉しかったのではないかと想像できます。

## ◆幻の山車祭礼

一宮市域には馬寄だけではなく、江戸時代には苅安賀村八幡宮に二輛、起村に七輛、



▲『起宿三番記録』  
明治三年(1870)

山車があったことが文献資料からわかっています。起本町にはとても愛らしい表情をした人形が二体残っています。山車と他のからくり人形が何処へ消えてしまったのか、謎が深まるばかりです。

(一宮市尾西歴史民俗資料館 学芸員 久保禎子)  
※最後に、長い間調査にご協力を賜りあたたかく見守ってくださいました石刀神社及び馬寄のみなさん、一宮市文化財保護審議会委員の鬼頭秀明氏、写真をご提供いただきなど多大なるご教示・ご協力を賜った方々にここに深謝の意を表します。

「あざみの会」は、平成16年に一宮スポーツ文化センターで開催された水彩画教室の講座が出発点です。その時の受講生により、更に研鑽をとの強い要望で、同年6月に発足しました。講座を担当されていた高山悟先生に講師をお願いし、今年で10年目を迎えました。現在は、山崎澄先生にご指導いただいています。

私達は、水彩画を通じて技術の向上や会員の親睦を図り、これからの人生を楽しく、うるおいのある日々をしたいと考えています。小中学生時代に皆一度は経験しており、なんら難しいものではありません。紙と筆、絵具があれば、どこでも描くことができます。そして描き終えた後は、何とも言えない充実した達成感を得ることができます。

会員には子育てを終えた人や仕事を定年退職した人、更なる向上を目指す人など様々です。現在は、毎月第1、第3水曜日の午前中に、一

宮スポーツ文化センターで活動しています。年1回は日帰りのスケッチ旅行を、また一宮市芸術祭に参加して作品発表会も開催しています。

日々の心を癒してくれる水彩画は、誰でも楽しむことができます。しかも日常生活に張りのある原動力となるものです。会の扉をたたき、自宅の部屋に自分の描いた水彩画を飾ってみませんか。初めての方でも大歓迎です。お待ちしております。



◀ スケッチ旅行

【問合せ先】村松 順道 ☎72-4437

「きそがわポップスバンド」は、平成9年7月に当時の木曾川町唯一の吹奏楽団として、木曾川高校プラスバンド部の卒業生13名で結成されました。

木曾川町一豊まつりや地元の老人ホームへの慰問演奏、その他にも市内外のイベントに出演し、今では年間20を超える公演を行っています。団員も大所帯となり、賑やかに活動しています。そして、学生から還暦を過ぎた人まで、皆楽器好きな仲間達で、「誰もが楽しめる音楽を」と「呼ばれるうちが華」をモットーに、日々練習に励んでいます。

普段の練習場所は木曾川公民館で、毎月第2から第5日曜日の午後5時から行っています。興味のある方は、ぜひご見学ください。

毎年3月には尾西市民会館で演奏会を行い、前回はおかげさまで満員となりました。次回は来年3月15日の日曜日に「きそがわポップスバ

ンド第14回演奏会」を同会館にて、午前と午後の2回開催します。演目は「オリジナルステージ」「ドリルステージ」「ポップスステージ」の3部構成で、誰もが楽しめる内容となっています。現在、1年の総決算であるこの演奏会に向け、団員皆一生懸命取り組んでいます。入場は無料ですので、ぜひたくさんのご来場をお待ちしています。



◀ 第13回演奏会

【問合せ先】岩田 健吾 ☎55-1647

「裏千家白河社中」は、三条にある蓮徳寺の庫裏で、木曜日と土曜日、日曜日の午後に活動しています。大所帯ではありませんが、皆で和気あいあいとお稽古をしています。

最近の発表の場は、11月に尾西市民会館で開催された尾西華道展・お茶会でのお茶席でした。本番に向けて熱心にお稽古された方達からは、茶道の作法のなかに静寂を味わうことができる、と言われる方もあり、更に深く茶道を学ぼうと、意欲的にお稽古をされています。

また、近頃は茶道に興味を持たれる若いお母さん方が、親子でお稽古を始められました。お子さんと一緒にお稽古されることで、親子のコミュニケーションが深まるようにも見え、お稽古日を特別に設定しています。

元々、この地域では七代尾張藩主の徳川宗春のもとで「茶の湯」が広められました。そのおかげで、幕末のころには日常の団らんの間でも、

抹茶が盛んに飲まれるようになりました。互いに招き招かれて、相手の思いを汲み取ろうとする気持ちの表現の場としても、茶道は大変楽しいものです。

茶道を気軽に、又は本格的に始めたいと思われる方、一緒に楽しくお茶を飲んでみませんか。お待ちしております。



◀ 普段の教室にて

【問合せ先】白河 香久子 ☎62-2582

私達は、平成12年に北方公民館青少年学習部によって開催された「水彩画を描く」という講座の卒業生です。講座が大変好評で、継続して活動していきたいという方が多かったので、翌年の4月から「水彩画教室クラブ」として発足しました。講座でお世話になりました高山悟先生に引き続きご指導をお願いし、現在は団体名を「花畑」として活動しています。

活動の内容は、毎月第2水曜日の午前に、北方公民館にて、先生の熱心で優しいご指導のもと、楽しく水彩画を描いています。

発表の場としては、北方公民館文化祭に毎年出品したり、ふれあいセンターたくみという北方町にある施設で10月に「花畑スケッチブック展」を開催したりしています。こちらには、メンバーが描いた生の作品を直接見てほしいとの思いにより、スケッチブックをそのまま展示しています。また、一宮市美術展に力作を出品するメ

ンバーもあり、入賞したときの達成感はひとしおです。他にも、銀行や飲食店などに展示させていただいたり、他のグループの皆さんと一緒に、スケッチ旅行にも出かけたりします。

現在は、男性2名・女性11名の気の良い仲間と、和気あいあいと絵を描いています。楽しい時間を一緒に味わいませんか。ぜひ一度、見に来てください。



◀ スケッチブック展

【問合せ先】岩月 滋子 ☎87-0037

第72回

# 一宮市美術展

11月13日(木)～16日(日)まで、一宮

スポーツ文化センターで「第72回  
一宮市美術展」が開催されました。

市内を中心に近隣市町村や、県  
外からも多数作品が寄せられ、出

品者は542名で、審査の結果、  
入賞となった175点をはじめ、

540作品が展示されました。  
期間中は、約5、200人の方

が会場を訪れ、作者の熱意・エネ  
ルギーを感じさせる多数の作品を

熱心に鑑賞されていました。  
各部門で入賞された方は、次の

とおりです。なお、同一賞内での  
掲載順は順不同です。(敬称略)

## 日本画

**審査員** 鈴木喜家

大島奈知子

**市長賞**

柘植雅一

**教育委員会賞**

星野真由

**美術展賞**

今枝 昭

長崎 悌子

高木 俊一

中島 淳志

**奨励賞**

宇佐見 信子

高柳 襄

本多 加代子

柴田 智美  
服部 五月

**入選** 36点

## 洋画



洋画部門解説

**審査員**

山田 彊士

柴田 仁士

岩田 哲夫

高山 清悟

三輪 弘

堀尾 一郎

**市長賞**

香川 絹代

水野 種富

**教育委員会賞**

飯田 耀子

清水 富貴子

**美術展賞**

浅野 なつ子

岩田 富雄

江口 和夫

河村 幸子

栗山 凌治

島津 秀典

鈴木 綾子

中田 世津子

成瀬 弘子

速水 基司

藤田 勝秀

森部 みや子

**奨励賞**

石黒 三雄

岩田 康子

神谷 武

桑山 直樹

杉山 美紀

高田 國光

戸松 佐代子

日野 絹枝

平野 肇

星野 鎮

加藤 栄子

磯部 和久

森 耕太

岩田 恵美子

臼井 哲雄

加納 静子

木村 忠嗣

近藤 憲男

杉浦 真二

時田 正雄

榎谷 咲子

則武 武子

藤井 忍

三島 泰子

井上 美恵子

梅田 恵子

神谷 久子

近藤 博通

鈴木 光男

丹慶 哲宏

内藤 啓善

平岡 隆

前田 郁夫

前田 いさ子

水巻 久美子

村橋 寛悦

吉川 京介

三輪 恭子

入選 160点

## 彫刻・立体

**審査員** 森川 孝文

川原 孝文

**市長賞**

松本 崇宏

**教育委員会賞**

水谷 三四士

**美術展賞**

渡辺 朝喜

**奨励賞**

白井 秀樹

**入選** 18点

鈴木 真保

彫刻・立体部門解説

工芸

審査員 加藤陽児

市長賞 鵜飼辰郎

教育委員会賞

田中彰子

美術展賞

加藤陽子

奨励賞

小崎陽一 橋本妙子

吉田茉央

入選

加藤功子 小崎千恵子

29点

デザイン



デザイン部門解説

審査員

源安孝 森昭夫

市長賞

山岸克也

教育委員会賞

加藤小恵梨

美術展賞

西美佳 呼元勇樹

李玲花

奨励賞

石井佳代子 加藤千佳子

百々佳美 森翔暉

入選

書

審査員

中林露風 安藤滴水

亀山雪峰

武山翠屋

則田杏華

山田杏苑

岩田春流

岩田潤

市長賞

鵜飼秀麗 可児長望

谷本義仙

教育委員会賞

春日井栄嘉 後藤柳月

酒井光華 戸本有荷

美術展賞

写真

審査員 北浦和夫

齋場ひとし

夫馬三平

林薫

市長賞

中村薫

教育委員会賞

安藤正一 千田陞未

浅野英次郎

今井要 今枝吉宗

大久保明美 大矢勝利

大矢真理子 岡田忠夫

小原勇二 春日井義三

田端勉 林都美子

奨励賞

安藤雅彦 今井彰二

鵜飼保 桜井悦子

篠田志能衛門 鈴木治彦

高田紀生 所由紀子

野口博子 橋本秀子

林孝弘 古舘正芳

水野雅央 吉田幸蔵

入選

88点

入選

176点

井上嘉蓮	岩田佳川	梶木光雪	小林進	酒井照苑	高取翠揚	谷本藤男	内藤爽月	前野樹風	山口雪華	山田紅照	渡辺湖風	安藤静歩	板垣祥華	梅村真琵琶	大橋溪煙	尾関明美	神田鴻都	後藤沼香	坪井重夫	長崎成秀	丹羽鈴子	原香風	平松豊泉	外村幹秀	村瀬紫苑
井上紅鳳	岩田展穂	小島華扇	近藤由果	高桑愛降	高松彩月	内藤春翠	林翠竹	松川春霞	山路静竹	脇田玉波	渡邊水香	井内溪舟	岩根民江	大塚雅泉	沖田茜舟	加藤瑞頭	岸田松峰	谷本喜泉	戸谷嘉恵	永田張羽	鳩山煌華	菱川武	深谷秋月	村上桂峻	山口如泉

# 文化情報



「海 辺」

丹羽 桃慶

## 《市および市内公共施設の催し》

### 一宮市博物館

☎(46)3215

#### 企画展「暮らしの中の民具」

##### ちえとくふう

日時 ● 1月10日(土)～3月8日(日)

午前9時30分～午後5時

(入館は午後4時30分まで、

月曜休館、月曜が休日の場

合は翌日休館、2月12日(木)

休館、以下同じ)

内容 ● 暮らしの中で使われる道具

には、昔の人の知恵や工夫

が詰まっています。これら

の展示を通して、道具の歴

史を紹介します。

観覧料 ● 一般 200円

高大生 100円

小中生 50円

※市内小中生・65歳以上無料(以下

同じ)

#### 企画展関連事業

##### 暮らし体験講座

日時 ● ①1月18日(日)②1月25日(日)

③2月11日(祝)

午後1時30分～3時

内容 ● ①もちつき大会②民族衣装

でファッションショー!

③昔のおやつ・せんばやき

※要常設観覧料「昔のおやつ」は

材料が無くなり次第、終了。

#### 講座「尾張平野を語る19」

日時 ● 2月15日(日)・2月22日(日)

3月1日(日)

午後1時30分～3時

内容 ● 自然・考古・民俗・歴史・

美術工芸などさまざまな分

野の講師をお招きし、尾張

平野の歴史と文化を紹介し

ます。

定員 ● 各回先着100名(当日正午よ

り整理券を配布)

※要常設観覧料

#### 「民俗芸能公演」

日時 ● ①2月1日(日)②2月8日(日)

③3月8日(日)

午後2時～3時

内容 ● ①島文楽②宮後住吉踊

③ばしよう踊

定員 ● 先着100名

※要常設観覧料

#### 企画展「2014 一宮美術作家協会展」

日時 ● 3月14日(土)～3月22日(日)

内容 ● 一宮美術作家協会会員によ

る最新の発想でイメージの

思索を展開した絵画・平面

彫塑・立体、デザイン、工

芸の力作を展示します。

### 三岸節子記念美術館

☎(63)2892

常設展「三岸節子絵画にける情熱—その言葉とともに—」

日時 ● 1月20日(水)～4月5日(日)

午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで、

月曜休館、1月27日(火)～30

日(金)・2月12日(木)休館、以

下同じ)

内容 ● 70年余りにわたる画業の中

で、制作の苦悩や芸術への

思いなど、画家としていかに

に生きるべきかを問うた文

章と作品をご紹介します。

観覧料 ● 一般 320円

高大生 210円

小中生 110円

※市内小中生・65歳以上無料・特

別展開催中はその観覧料に含む

#### 特別展「吉田博・吉田ふじを展」

日時 ● 1月31日(土)～3月15日(日)

午前9時～午後5時

内容 ● 美しい風景を情緒豊かな水

彩画や油彩画に描いた吉田

夫婦。日本の洋画史でたく

い稀な足跡を残した二人の



画家の歩みを紹介します。

観覧料 一般 700円

高大生 400円

小中生 200円

※市内小中生・65歳以上無料

### 尾西歴史民俗資料館

〒(62)9711

#### 企画展「原日本考ゆかりの地

「朝日村」

日時 1月10日(土)～2月22日(日)

午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで、

月曜休館、月曜が休日の場

合は翌日休館、2月12日(木)

休館)

内容 市内南西部の朝日地区の歴

史について紹介します。

観覧料 無料

#### 企画展関連事業

##### 展示説明会

日時 1月17日(土)午後1時30分～

内容 企画展の見所を解説します。

##### 百年前の学校に行こう

日時 2月15日(日)

①午前10時～ ②午後1時～

内容 約百年前の学校の授業内容

や時代を体験します。

#### 講座「歴史と民俗18

「歴史資料の保存」

日時 1月25日(日)・2月1日(日)

2月8日(日)

午後1時30分～3時

内容 災害や経済発展の中で歴史

資料の散逸を防ぎ、保存運

動に活躍する研究者を招き、

歴史資料の大切さを学びま

す。

定員 50名

※参加無料。当日会場にて、正午

より整理券を配布

#### 講座「街道文化を探る」

日時 3月8日(日) 午前9時～午

後4時30分(予定)

内容 宿場町の遺構が豊富な地域

を訪ね、市内では失われつ

つある宿場の文化や歴史資

料の大切さを学びます。

定員 35名

※参加無料。要申込み。詳しくは

2月号広報を参照

### 中央図書館

〒(72)2343

#### 展示「季節の絵手紙展」

日時 3月17日(火)～29日(日)

午前9時～午後9時

内容 季節を題材とした絵手紙

(お便り)を展示します。

会場 6階 多目的室2

観覧料 無料

### 一宮市民会館

〒(71)2021

#### 親子で楽しめるコンサート!

サンリオ ファミリークラシック

リボンの国の音もだち

日時 2月15日(日) ①午前11時～

②午後2時～(開場は共に

30分前)

入場料 2,000円

※全席指定・3歳未満の子供は保

護者1名につき1名まで膝上に

限り無料。

### 一宮市尾西市民会館

〒(62)8222

#### 「笑点」でお馴染みの二人の落語家

が一宮にやってくる!

春風亭昇太&林家たい平 二人会

日時 2月14日(土) 午後2時～

(開場は30分前)

入場料 A席 2,800円

※全席指定・未就学児入場不可

### 青年の家

〒(73)2400

#### 「ヤングフェスティバル」

日時 3月1日(日)

午前10時～午後3時

内容 青年グループ活動の発表会

で、一般の方も自由にご覧

いただけます。ご家族連れ

でもどうぞ。餅等の振る舞

いもあります。

参加料 無料(内容により有料)

### (公財)一宮地場産業

ファッションデザインセンター

〒(46)1361

#### ジャパン・ヤーン・フェア

& 総合展「THE尾州」

日時 2月4日(水)～6日(金)

午前10時～午後5時

内容 国内唯一の糸の展示会や尾

州産地の素材、またそれら

を活かした衣装等を展示し、

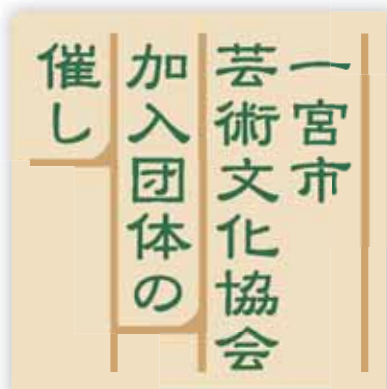
繊維産業、ファッション産

業の今をPRします。

会場 総合体育館

入場料 無料(糸の展示会は商談

者のみ入場可)



川柳社委員が指導します。  
(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

### 『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

☎(51)22806

日時▼1月10日(土)・2月14日(土)

3月14日(土) 午後1時〜

※2月は午前9時30分〜

会場▼葉栗公民館

内容▼各自10句持参、互選により  
優秀作を記録に残します。

(初心者歓迎)

参加料▼無料

### 『市民短歌教室』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(72)7691

日時▼1月11日(日)・2月8日(日)

3月8日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼真清短歌会委員により実作  
指導します。(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

### 『新年短歌会』

【問合せ先 真清短歌会】

【問合せ先 一宮川柳社】  
☎(46)6951  
日時▼12月21日(日)・1月25日(日)  
2月22日(日) 午後1時〜  
会場▼一宮スポーツ文化センター  
内容▼自由吟および課題吟を一宮

☎(72)7691

日時▼1月25日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼どなたでも(大会に先立ち  
ハガキにて雑詠一首提出)

参加料▼500円

申込み▼当日直接会場

### 『平成26年度支部講演会』

【問合せ先 (公)中部日本書道会

一宮支部】

☎(62)1841

日時▼2月1日(日)

後4時〜5時30分

会場▼一宮スポーツ文化センター

講師▼(公)中部日本書道会顧問・  
読売書法会理事・日本書芸

院参与 倉重拜石先生

演題▼「かな書道の勉強方法」

入場料▼無料(一般聴講歓迎)

### 『加入団体の催し』欄に情報を掲載しませんか？

このコーナーでは一宮市芸術文化協会加入団体の活動情報を募集します。掲載を希望される団体は、発行月3・6・9・12月の前々月15日までに、下記の必要事項を任意の様式にて記入の上、事務局まで提出してください。

**必要事項** ①行事名 ②団体名 ③問合せ先電話番号 ④日時  
⑤会場 ⑥対象 ⑦参加料 ⑧申込方法 ⑨その他  
必要事項

**提出先** 〒491-8501 一宮市芸術文化協会事務局 (住所不要)  
またはFAX 0586-73-9213



1冊800円で一宮市役  
所本庁舎4階(一宮市教育  
委員会生涯学習課)にて販  
売しています。貴方も是非、  
お読みください。

10月18日(土)に「いちのみや  
文芸第43集」を発刊しました。  
随想・随筆、現代詩、漢詩、  
短歌、俳句、狂俳、川柳の7  
部門あわせて345名の方か  
ら寄せられた2、652作品  
を掲載しています。

『いちのみや文芸』  
第43集を  
刊行いたしました

## 愛知県文化協会連合会の催し（報告）

### 愛知県文連美術展

9月30日(火)～10月5日(日)、愛知県美術館8階ギャラリーを会場に第39回愛知県文連美術展が開催され、県下より367作品が入賞・入選に輝きました。

本協会からは(日本画の部)今枝昭さん、今枝由恵さん、尾池純子さん、瀧廣美さん、藤塚章さん、(洋画の部)伊熊睦子さん、長谷川千代子さん、米津美代子さんが入選されました。

期間中、約1、700人もの方が来場され、ごなたも芸術の秋を満喫されていました。

### 愛知県民茶会

11月23日(祝)、みよし市文化センターサンアートにおいて、愛知県民茶会が行われ、愛知県文化協会連合会、みよし市文化協会の尽力により、十の文化協会の皆様が設席をされ、大変多くの方が来場されていました。

趣向が凝られたお茶は、時間が経つことさえも忘れさせてくれる

温かく心安らぐ一杯でした。そのおもてなしに来場者は大変満足され、どのお茶席も最後まで活況を呈していました。



### 愛知県文連西尾張部芸能大会

11月30日(日)、犬山市南部公民館を会場に、愛知県文連西尾張部芸能大会が開催されました。西尾張部に所属する十の文化協会の各団体の発表は、太極拳や銭太鼓をは

じめ、歌謡、大正琴、日本舞踊、吟と舞、カラオケ、日本民謡舞踊、モダンバレエと多種にわたり、どの発表にも惜しみない拍手が送られていました。

本協会からは「扇寿々会」(舞踊部門)の皆様が出演され、「蝶の道行」の演目を披露されました。日頃の練習の成果を存分に発揮したその演舞は、見ている者を魅了する大変素晴らしいものでした。



### 一宮市表彰条例 による表彰

9月1日(月)、一宮市民会館において、市制93周年記念式典が行われ、当協会の加藤昌義会長が文化振興功労者として、その永年にわたる功績を讃えられ、一宮市長より表彰を受けました。  
心よりお慶び申し上げます。

### お詫びと訂正

いちのみやの芸術文化第30号(平成26年9月)の特集「妙興寺の歴史と文化財」にて、一部誤りがありましたので、お詫びして訂正させていただきます。

3頁3段落13行目

#### 【誤】

平成二十六年三月には、大応国師と大照禅師の・・・

#### 【正】

平成二十六年八月には、大応国師と大照禅師の・・・

# よい印象の言葉力

フリーアナウンサー

宮本隆治さん

30秒で人の心をつかみ  
1分でまごめる

10月18日(土)、一宮市尾西市民会館にて、文化講演会が開催されました。

フリーアナウンサーとして活躍中の宮本隆治さんをお招きし、「よい印象の言葉力」と題してご講演いただきました。

## 【講演要旨】

今日のテーマにもなっている言葉の力。例えば、本日発刊されたこの「いちのみや文芸」。先ほど協会の会長さんが、八百円とサラッとおっしゃっていま



したが、ただ漠然と言うのではなく、期間限定！個数限定！特別価格の八百円！と言うとそれだけで受ける雰囲気は全く異なり、人間の心理として、早く買わないといけないという感じになるのです。少し付け加えるだけで印象が全く違ってくる。言葉は本当に面白いものです。例えば「一宮」。漢字は物の形を表しています。「一」というのは一本の「一」、<sup>なご</sup>「宮」のウ冠は屋根を表しています。つまり家を表しているのですね。では「呂」は何でしょう。これは建物の部屋を表しています。ですから屋根が付いた空間が、いくつも繋がっているという建物。そうです。神社というのは本殿だけではなくて、色々な建物が複合しています。それが宮という字なのです。

さて、私は長い間マイクを持つ仕事をしております。そのため、普段ステージ上であがらないのですが、緊張感には常に持っています。ただ、大相撲の力士が結びの一番で自分自身に気合を入れるように、入れすぎて話をする其自然とそれが伝染してしまいます。そして自分自身も疲れてしまいます。ですから緊張感を持つけれど、持ちすぎないようにすることが、良い印象を与えるうえで大切なことになります。それではどのようにすれば、程よい緊張感を持ちつつ、相手と話をする事ができるのでしょうか。それは話をする時に相手の目ではなく、□元を見て話をするのは、相手の目を見ると、お互いに見られている感じがして、必要以上に力が入ってしまいます。□元を見ると気が楽になるのです。

もう一つ大事なポイントとして、声の出し方があります。人間の声の出し方は大体三通りに分けられます。それはお腹だけをを使う人、喉だけを使う人、お腹の底から出す腹式呼吸をする人。お腹だけというのは結構政

治家に多かったりします。次に喉を締め付けるタイプですが、一番分かりやすい方が俳優の田中邦衛さんになります。そして腹式呼吸を使って声を出す方法ですが、この方法が一番理想的で、相手に安心感を与える声になります。刑事コロンボを皆さん覚えていらっしゃいますか。この刑事コロンボを日本で初めて吹き替えされたのが、小池朝雄さんという、既に亡くなられています。この方は声はまさに理想的で、皆さんには是非、刑事コロンボになっていただきたいですね。と言われても難しいと思いますので、その目安としてご自宅で三メートル離れたご家族の方に「新聞取って」と声をかけてみましょう。自宅というリラックスした状況で、発声されるこの声が理想的な声になるのです。理想的な声というのは、ご自分にとっても、それをお聞きになる周りの方々にとっても、非常に聞きやすい音になります。このようなことを取り入れ、楽しい発声生活を送っていただきたいと思えます。

【題 字】 武 山 翠 屋  
【編集・発行】 一宮市芸術文化協会

【連絡先】 一宮市芸術文化協会事務局（市教育委員会生涯学習課内）  
〒491-8501 愛知県一宮市本町2丁目5番6号  
TEL 0586-85-7075 / FAX 0586-73-9213